

本年の入園児減少の傾向について

いる学校とは全く根本的にその立場は異っているのである。私立学校には興亡のあること、その存在は社会の信頼によって支えられていることを後記しなくてはならない。そして社会の信頼を獲ち得るため、私立幼稚園も一段の努力を戦い度いと思う。

今後は幼児の絶対数の減少と、幼稚園数の増加によって幼稚園の経営は相当苦心を必要とするものと考えられる。私立である以上、経営に重点をおかれるのは当然であるが、教育の充実に更にも努力を怠っては、前述の社会の信頼を獲得ないだろう、その道はけわしいが、私立幼稚園界は、まだ一般私立学校に比して平安なものであろう、なぜならば、私立幼稚園は未だ大体に於て私立幼稚園相互の対決だからだ。おたがいに相扶け、協調する横への道が残されている。しかし、他の私立学校に於ては、国公立学校と相並んでいるので、私立同志の問題ではない。そして私立と国公立とは全く連絡もなく、協調も有り得ない！異質の設置者であるから、独立独歩お互に教育の実績に於て正々堂々と二本の大道を歩んでいるのである。幼稚園にも漸次、公立設

置の気運が強められて行きつつあるようだ。私立学校が辿った道をやがて私立幼稚園も追まなければならぬだろうと思う。公立幼稚園の設置されることは六三制の完備充実までは望ましくないので私は反対であるが、六三制義務教育の充実したときには、公立幼稚園の設置が促進されることになる。今から大乗の立場に立って自らの幼稚園を社会的に不動の信頼を獲ち得且つ築かれることを祈って

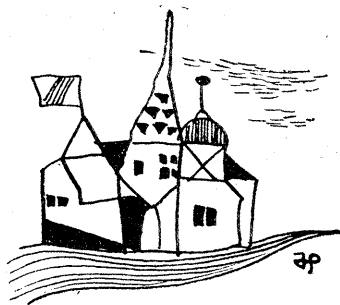
大阪便り

岡田しげの

本誌編集部からの御照会の趣旨によると、広く大阪府の国公立幼稚園全体を展望して、お返事をせねばならぬように考えられますが、生憎の休暇中、調査の方法もつきませぬ

止まないものだ。
私立幼稚園の立場で、私立幼稚園の反省を思切って書いて来た。失礼の言葉が多いと思うが、どうか御容赦願ひ度い。幸い私立幼稚園の発展のための努力が報いられて国家的社会的に私立幼稚園の地位が極めて高く確立されて来たことを衷心より喜ぶと共に今後一層の隆盛を心から念じている。

(前日本私立幼稚園連合会理事長)



ので、心ならずも大阪市の公立幼稚園の現状を御報告することにいたします。

○幼児数減少の原因

大阪市に於ける、昭和三十一年度の該当年

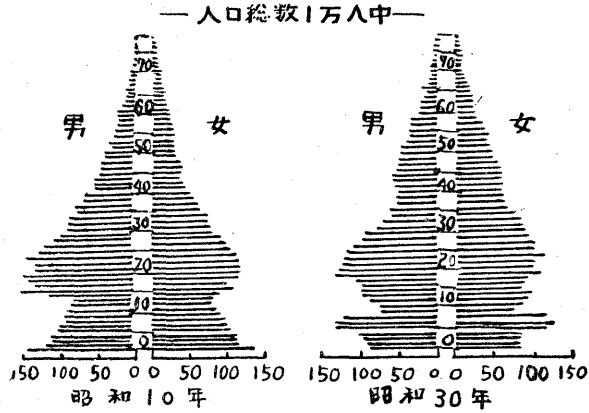
令児の数は、昭和三十年度にくらべて、約八千五百人減少しているというのが、大阪市教委学務課の調べでした。生産減の原因は、終戦時、疎開地、外地等からの引揚げ、復員などでの出生ラッシュが落ちついたのと、その後に来た中小企業への圧迫といひましょうか、政策が、中小企業者の多い大阪では、実生活に可成りの影響を与え、その影響がまた、出生にまでひびいてきたのではないかと考えられます。産制の慎重に考えられるようになったのも、経済生活のもたらした当然の帰結と申せましょう。

下図は、三月五日発行の大阪市政だより（「人口ピラミッド」は語る）から抜粋したものです。が、本年〇歳の子供を目指してピラミッドは不安定な底辺を作っていますので、大阪市に於ける限り幼稚園の園児募集難は、相当深刻な数年をつづけるものと、予想されるのであります。

○対策

大阪市に於ては、昨年すでに該当年令児数の減少予想がたちましたので、現場の者達はいろいろの対策をたてました。先ず順を追う

大阪市人口の年令構成



— 大阪市政だよりより —

人口ピラミッド幼児年令層（六歳以下）は普通は末広がりになりますが、年令が下るに従って尻すぼみになり、〇歳が最も少なくなくなって、最近における出生率の低下が非常な勢いで進んでいることを示しています。このような幼児人口の減少は、幼稚園、小学校に影響を及ぼし小学校では年々入学者が少なくなり将来は人口の面から現在のような大量入学の悩みが緩和されることも予想されます。

て述べてみましょう。

1. 園長会から市教委への懇請

市の予算の都合で、園児募集要項は、例年一月になって示されることが多いのですが、今年はその十二月には、明示されるように懇請しました。従来は一年保育優先のたてまえから、一年児を募集の後、園児数不足と決めた幼稚園にのみ、再募集が許可されて二年児を集めました。しかしその時は、時すでにおそしの悔を切に感じていましたが今年、懇請の甲斐あって一年保育優先但し二年保育児を同時に募集してよいということになりました。このことは現場の者達の手数を省き、しかも定員確保の上には大変有効でございました。

2. 第二回幼稚園生活展覧会の開催

左記のような構想のもとに、大阪心斎橋のそごう百貨店の五階一七〇坪を会場として、約一二〇万円の資金をもって、展覧会を開催しました。場所はよし、期間が丁度七日正月前後のくつろいだ時であったためと、近く幼稚園にやらねばならぬ愛児の入園について、家人の関心のうごいている時期だったことも幸して、連日一万余人の人達の来観がありました。

本年の入園児減少の傾向について

した。その来観者のために、第二会場（七階劇場）で全市四十八の幼稚園児によるデモン

大きな対策の一つに数えられると考えられますが。

第二回幼稚園生活展覧会の構想

一、名称 第二回幼稚園生活展覧会

一、目的 1 幼児期教育の重要性と世人に認識し

一、主催 大阪市立幼稚園教育研究会、大阪市教育委員会

一、期日 昭和三十一年一月六日（金）～一月十二日（水）

一、会場 心齋橋そごう五階並に七階

一、展覧内容

一、幼稚園は何をするところか

二、幼稚園教育はなぜ必要か

三、大阪にはどれだけの幼稚園がありどれだけの園児がいるか

四、幼児の基礎能力からみた幼稚園の教育課程

（五歳児はこれだけことができる）

五、健康 2 社会 3 自然 4 言語

五、音楽リズム 6 絵画製作

五、幼稚園教育の変遷

1 建物の面から 2 教育目的の面から

3 保育材の面から

4 手段方法の面から

六、幼児はどう伸びていくか（小学校教育との連関）

附

A デモンストレーション

1 幼児の演戯（全表現活動にわたって）

2 映画幻燈の上映

1 幼稚園の行事（運動会）

・ 幼稚園生活の一日

・ 健康教育あれこれ

・ 園外保育（卒園児）

3 短い講演会

健康教育あれこれ

短かい講演会

短かい講演会

短かい講演会

短かい講演会

短かい講演会

短かい講演会

短かい講演会

短かい講演会

短かい講演会

短かい講演会

短かい講演会

って園舎の増改築、施設の充実、消耗品費等まで、保護者の負担に（PTA・育友会を通して）負うところが少くありません。そのために一人の幼児を通園させるのに可成りの費用がかかることとなります。京に田舎ありと申しましようか、どんなに有福な地域にも露地や裏町があり、間借りや二階借り族はある訳です。託児所のない地域では、一応それに類した考え方から、入園を希望していらっしゃる人達のあることも予想されます。とうしても公立幼稚園は、物質的負担の少ないもの即ち教育の機会均等を得させるために十二分に庶民性をもった経営でなければならぬと思います。以上は園児数の減少に備えての対策の一例であります。

○減少から起る問題

1. 教育基本法に準拠しよう。

大阪の町には幼稚園バスが縦横に走っています。送り迎えに「バス横つけ」に魅力を感じて私立幼稚園にいらっしゃる方も多いようです。園児獲得のために、園児用靴に願書用紙をいれて戸別訪問される幼稚園、先生やPTA役員に一人〇〇名という園児獲得責任数が

与えられて、大量に募集されているところ等随分幼児競争奪あの手この手が生れて来たようです。（勿論これは公立の問題ではありません）しかしこれは、昭和二十八年頃の幼稚園ブームにのって、あまりに幼稚園が認可された結果でやむを得ぬことなのです。そこで思うことは園児数漸減の将来を見透して、法の定めるところに従って三歳の幼児（三年保育）を保育の対照にしてはどうかということです。多年の念願時期到来ということではないでしょうか。そのためには施設にも、保育の方法にも多くの考慮が払われ、一組の幼児数にも慎重な勘案がなされねばならぬ面はありますが、幼児数減少から起る問題の一つは解決されるのではないかと思います。

2. 園児募集は入園式の翌日から

十二月の半頃、私の方のPTA役員の一入が、園長先生、私の方の近所には三つの幼稚園があります。そこでは十月頃からしきりに勧誘にみえています。すすめられてその方にいらっしゃる方も大分あるようですが、こんなにじっくりしていて大丈夫ですか」と仰言いました。私の方は入園式の翌日からの毎日が入園募集だと考えて保育に専念しているの

ですが、それでは駄目でしょうか」といって笑ったことでした。おかげ様で三百余名を修了させて、涼しく三百名の新入園児を迎えました。日日精進、保育の本道をひたぶるに歩むことこそ、世論を喚起することであり、幼稚園教育の重要性を認識させることであり、招かずして園児を集める方法ではありませんか。（全国々公立幼稚園長会理事）

（46頁よりつづく）

そうして、旧き教え子が有名な学者や知名方に成功されたのを新聞やラジオに見聞する度毎に、何ともいへぬ今昔の思いたえません。板橋先生にはこの主任の教をうけられた一人でしたのに、今は病床に伏されたこと先生は元より私も実に残念でしたが、人格高く徳広き山村きよ先生が後任として毎日毎日を幼稚園の為に御つくし下さるので、誠之幼稚園の名声いやが上にも高まることと旧職員一人としてほこりと身のひろき思いに明けくれ、宮島のあの美しい海の見えるこの閑居の二階よりはるかな東の空をなつかしく眺めては、いやさかをお祈りいたしています。

（広島市迎洋本町一〇九六）